黒岩探訪　検索

黒岩探訪バックナンバーが小学校のウエブページに載っています。「黒岩探訪」で検索してください。

黒岩探訪（たんぼう）

40

KUROIWA くろいわ

オオカミのれいを祭った新田山神様

黒岩カルタの「お」の読み札です。本連載32号で、黒岩小に残る民話「新田の山神様」の紙芝居について触れています。これは昭和60年度四年生（現在のPTA会長さん世代）が作成したものです。当時の新田地区の田中国満さん、和田ふみさんから伺った話を紙芝居として残したもので、新田から南に抜ける向こう坂峠を舞台にしたオオカミと村人の話です。全十二枚組で、その最後には次のように書かれています。

新田の山神様
−昭和60年度4年生制作

新田の山神様　石殿（宮）への道中

「今でも、新田の人々は、毎年、毎年11月11日から12日にかけて、山神様のお祭りをし『新田の人々の生活をお守りください。』とお願いをしているんだと。この行事は、新田じゅうのお祭りで、近所の人や親戚の人たちが山神様にささげる赤飯をたいてしんぜるんだと。山神様の日には、行燈が並んでその行燈の火を見た人は、こころがほのぼのとあたたかくなるんだとさ。」

今でもこの年中行事が続けられていると聞きこの11月11日に行ってきました。行くとすでに行燈は立てられていました。山頂には二基の石殿（宮）がありました。地区の人の話では、昔は12日になるとすぐ真夜中にお赤飯を供えていたそうですが、今では12日の朝早くに供えているそうです。

『富岡市の石造物』（富岡市教委）によると山神塔（さんじんとう）について次のような説明があります。「山の神は、山での生産を豊かにし、山仕事を守護してくださる神と信じられ、信仰されてきた。・・（中略）・・鏑川を境に北は十二様といって祭日は12日、南は17日が多い。この日は山の神にオサゴ、赤飯、お頭付き、餅、塩などを供えて山での無事を祈ったものだという。市内に遺存する山神塔は総数で15基となっている。」

また同著では、新田の山神塔の刻字について、一つは「嘉永五（1852）壬子年十一月吉日、飯島氏」、もう一つは「慶應二（1866）年寅二月吉日」と説明しています。慶應二年の刻字は今でもはっきり分かりました。また、その石殿の石材は、＊牛伏砂岩に見えました。（＊甘楽町～吉井町にかけて存在する石材）

民話の中には、七日市の前田家に仕える役人も登場します。石殿が建てられたのは160年以上前の江戸時代のことです。長く地域の行事を続けてこられた伝統の力に感銘いたします。

石殿（宮）（慶應２〔1866〕年）

石殿（宮）（嘉永５〔1852〕年）